HITACHI

FLORA 270W NA1

3

ハードウェアを使いこなす

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

このマニュアルの使い方

このマニュアルでは、周辺機器の接続方法、日常のお手入れ、技術情報を説明しています。必要に応じてお読みください。

■「1章　バッテリーを使う」
バッテリーの使い方について説明します。

■「2章　周辺機器を接続する」
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■「3章　日常のお手入れ」
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■「4章　技術情報」
パソコンの仕様、有償部品やオプション情報について説明します

マニュアルの表記について

⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
CD/DVD ドライブ	このマニュアルでは、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブをまとめて表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。

マニュアル内で使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。また、特に記述のない限り、画面はすべて Windows XP のものです。
URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

もくじ

1章

バッテリーを使う

この章では、バッテリーでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

バッテリーの充電

バッテリーでパソコンを使うには、バッテリーを充電する必要があります。

1. **パソコンの電源を切り、バッテリーパックを取り付ける。**

2. **AC アダプターをパソコンに接続する。**

   ▼充電が始まる。充電中はバッテリーランプがオレンジ色に点灯し、満充電になると消灯する。

充電時間

パソコンの電源を切って充電

1.5 〜 2.5 時間(リチウムイオン標準バッテリーの場合)
2.5 〜 3.5 時間(リチウムイオン大容量バッテリーの場合)

パソコンを使用しながら充電

1.5 〜 2.5 時間(リチウムイオン標準バッテリーの場合)
3.0 〜 4.0 時間(リチウムイオン大容量バッテリーの場合)

⚠警告

◎ バッテリーパックを充電するときは、必ずこのパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

参照

バッテリーパックの取り付け方→『パソコンを準備する』1章の「接続しよう」

重要

◎ バッテリーの残容量が 95%以上の場合は充電を開始しません。

重要

◎ 放電しきったバッテリーパックや充電せず長期間放置(過放電状態に)したバッテリーパックでは、充電できない場合があります。充電できる場合は、通常時に比べ、充電に時間がかかることがあります。また、バッテリーランプが消灯しても満充電にならない場合があります。Windows の電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーパックを取り付け直して再充電してください。

ヒント

★ バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーパックの劣化状態などに応じて異なります。

★ パソコンを使用できる環境(温度、湿度)でバッテリーパックを充電しないと、満充電にならないことがあります。

充電状態の確認

充電状態はインジケーターランプで確認します。

充電中

バッテリーランプがオレンジ色に点灯

満充電

バッテリーランプが消灯

ヒント

★ AC アダプターでパソコン使用時、充電状態のバッテリーパックを取り付けていると瞬時停電にも対応できます。

★ 放電直後などでバッテリーパックの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

満充電状態のバッテリーでの動作可能時間は次のとおりです。

270W	標準バッテリー	大容量バッテリー
NA1	約 2 時間	約 4.5 時間

ヒント

★ 動作可能時間は、次の環境で、JEITA バッテリー動作測定 (Ver.1) により測定、算出した値です。

・動画ソフト:Windows Media Player

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。また、長い時間使わないときは、電源を切ります。

参照

節電機能の設定について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の２章「消費電力を節約する」

画面を静止させたり、画面の明るさを下げる

■画面を静止させる

スクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「なし」(静止画) を選んでください。

■画面の明るさを下げる

[Fn] + [F8] (☼ー) キーを押してディスプレイの明るさを下げると、消費電力を抑えられます。

音量を下げる

スピーカーボリュームで音量を下げると、消費電力を抑えられます。

バッテリーの容量を確認する

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量がわずかになったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源オプション] で行います。

[電源オプション] の開き方

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

▼ [コントロールパネル] が表示される。

2 [電源オプション] をクリックする。

▼ [電源オプションのプロパティ] が表示される。

容量を確認する

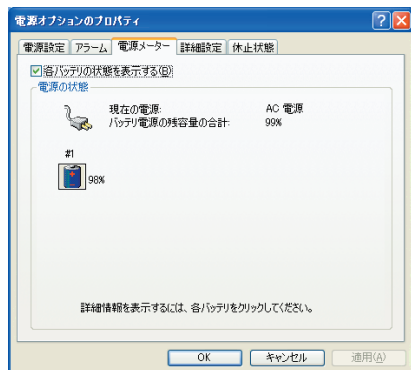
1 [電源オプションのプロパティ] の [電源メーター] をクリックする。

▼ バッテリーの容量を確認できる。

ヒント

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] に [電源オプション] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

★ Windows 2000 の場合、[スタート] ボタン－ [設定] － [コントロールパネル] をクリックしてください。

ヒント

★ [電源メーター] は、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。

★ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。

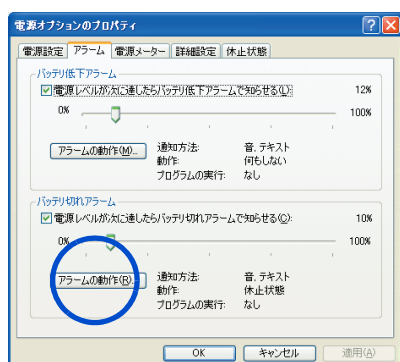
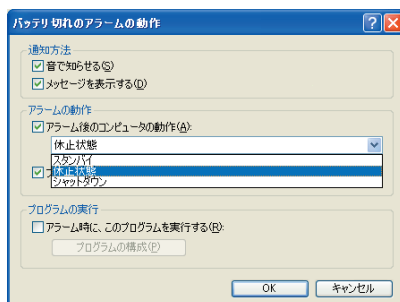
★ バッテリーパックを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きいです。一度、満充電にすると誤差は小さくなります。

★ バッテリーパックが満充電でも 100%と表示されないことがあります。

バッテリーの容量が少なくなったときの設定

バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンをどうするかを設定できます。標準では、休止状態が働くように設定されています。
このほかの設定は標準値のままお使いください。

1 **[電源オプションのプロパティ] の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **「バッテリ切れアラーム」 の [アラームの動作] ボタンをクリックする。**

3 **「アラームの動作」の「アラーム後のコンピュータの動作」にチェックを付け、[スタンバイ]、または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**

4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

標準バッテリー (AB6900) に適した使用環境

標準バッテリーの使用時の動作条件には制限があり、主に次のような使用環境に適しています。

・通常、AC アダプターでの使用が主で、停電時の復旧として使用の場合
・スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として使用の場合
・主に、低負荷 (常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行しない) での使用の場合
・寒冷地では、立ち上げ時の残量表示が極端に少なくなります。また、充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置したあとに充電してください。

大容量バッテリー (AB6910) に適した使用環境

・通常、モバイル環境（バッテリー）での使用が主の場合
・主に、高負荷 (常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行させる) での使用の場合
・バッテリー動作時間を長持ちさせたい場合
・寒冷地では、立ち上げ時の残量表示が極端に少なくなります。また、充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置したあとに充電してください。

バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、AC アダプターを接続しないで電源を入れる場合、立ち上げに多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

過放電しない

満充電のバッテリーパックをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに1ヶ月以上使用しないと過放電になります。また、残量の少ないバッテリーパックをパソコンに取り付けて 2 〜 3 日放置すると、過放電になります。過放電したバッテリーパックは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーパックは使用できなくなることがあります。

ヒント

★ 標準バッテリーは、動作するアプリケーションの負荷が大きい場合、使用に制限を受けます。例えばバッテリー使用時にアプリケーションを多数動作させるような高負荷の使用条件では、大容量バッテリーが必要になります。

重要

◎ 標準バッテリーを高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。

参照

使用環境について→ 4 章の「パソコンおよび周辺機器を使用する環境について」(P.57)

AC アダプターとバッテリーパックを付けたまま長時間放置しない

バッテリーが満充電になったら、AC アダプターとバッテリーパックを差したまま長時間放置しないでください。AC アダプターを差していても、バッテリーは少しずつ放電して容量が減ります。バッテリーを再度充電するには、AC アダプターまたはバッテリーパックを接続し直してください。

長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーは使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15%以下であれば充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電してください。

バッテリーパックの交換時期

ここでは、バッテリーパックを交換する方法について説明します。

交換時期

警告メッセージが表示されたら、バッテリーの残量は 12%未満です。この状態を「Low Battery」といいます。Low Battery になったら、バッテリーパックを交換してください。Low Battery のまま放置し、残量が 10%未満になると、再び警告メッセージが表示され、[電源オプション] で設定した状態 (休止状態またはスタンバイ) になります。

ヒント

★ パソコンの電源が切れていてもバッテリーは消耗します。1ヶ月以上使用しないときは、ときどき充電するか、パソコンからバッテリーパックを外してください。

休止状態の場合

休止状態は、現在の状態を保存して電源が切れます。AC アダプターを接続するか、満充電のバッテリーパックと交換してから電源を入れてください。

ヒント

★ AC アダプターを接続しなかったり、バッテリーを交換する前には、休止状態やスタンバイ状態から復帰しないでください。復帰には電力が多く使われるため、バッテリーが切れ、復帰しないことがあります。

★ HDD、FD、CD-ROM などを使用中にスタンバイまたは休止状態が始まった場合は、復帰しても元の状態に戻らないことがあります。

★ スタンバイから復帰する際には、電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れます。

スタンバイの場合

すぐに AC アダプターを接続してください。スタンバイのまま放置するとバッテリーがなくなり電源が切れます。スタンバイから復帰するには電源スイッチを約１秒押します。

交換方法

交換するバッテリーパックは、残量が 30% 以上で使用してください。

電源を切って交換

1 パソコンの電源を切る。

2 バッテリーパックを交換する。

電源を切らずに交換

1 AC アダプターを接続する。

2 スタンバイ状態または休止状態にする。

3 10 秒以上待ってからバッテリーパックを交換する。

重要

◎ スタンバイ状態または休止状態にしないで交換すると、HDD に衝撃が加わって故障する原因になります。

◎ バッテリーパックを交換した直後は、正確な残量表示ができないことがあります。満充電まで充電するか、バッテリーを使い切ると正しい残量を表示します。

2 章

周辺機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

◎ **接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。**
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	なし	—
プリンター	プリンタードライバー	プリンター付属のマニュアル
ディスプレイ	・表示ドライバーの セットアップ ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」 参照 本章の「ディスプレイを接続する」(P.29)「マルチディスプレイ表示にする」(P.32)
マイク ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーの セットアップ＊	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
PC カード	PC カードドライバーのセットアップ	PC カード付属のマニュアル
モデム	モデムドライバーの セットアップ	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
LAN	LAN ドライバーのセットアップ	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
USB 機器	USB 機器ドライバーのセットアップ	USB 機器付属のマニュアル

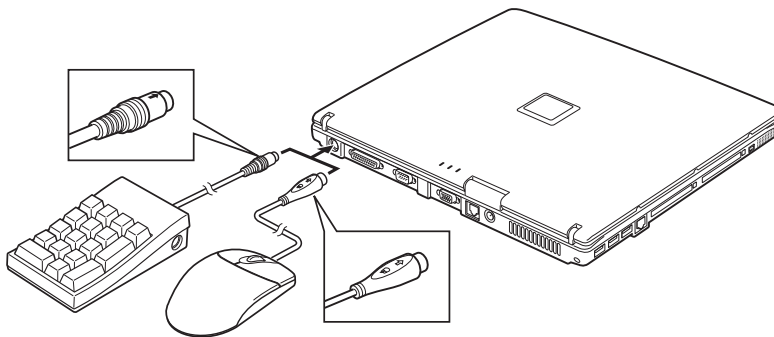
＊ ご購入時の状態で、セットアップまたは設定済みです。

マウス、テンキーボード

ここでは、PS/2 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法と、マウスの操作方法について説明します。

接続方法

どちらか片方だけ使う場合

1 パソコン背面のマウス／テンキーボードインタフェースコネクターにマウスまたはテンキーボードのケーブルを接続する。

参照

USB 仕様のマウスやテンキーボードの接続のしかた→「USB 機器を接続する」（P.27）

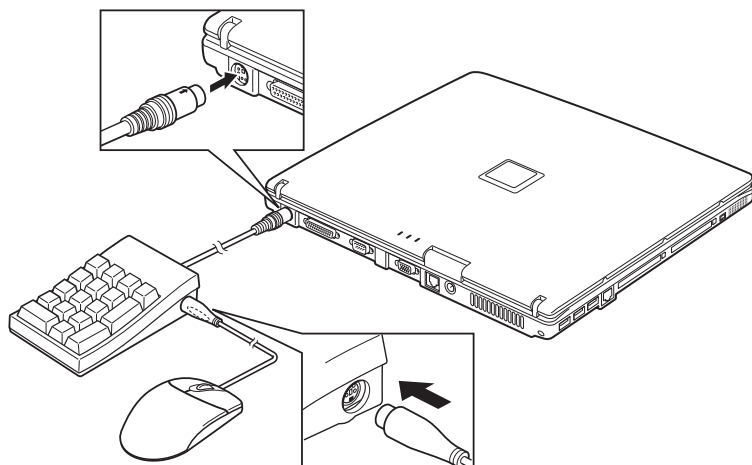
重要

◎ PS/2 仕様のマウスを接続すると、ポインティングパッドは使用できなくなります。

◎ 各コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

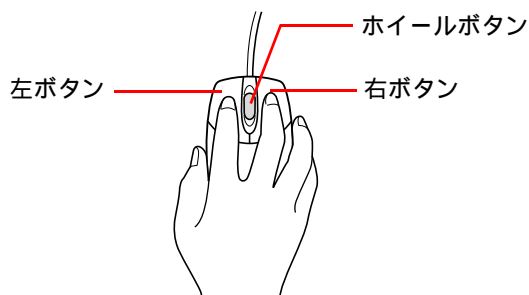
両方使う場合

1 パソコン背面のマウス／テンキーボードインタフェースコネクターにテンキーボードのケーブルを接続し、テンキーボード側面のマウスコネクターにマウスのケーブルを接続する。

重要

◎ 各コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

操作方法

マウスの持ち方

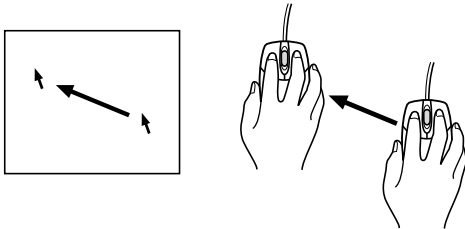
マウスを右手の手のひらで包み込むように持ち、人差し指を左ボタンに、中指は右ボタンにかかるようにします。

重要

◎ マウスを落としたり、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

◎ マウスケーブルを引っ張ったり、マウスをぶら下げて運んだりしないでください。

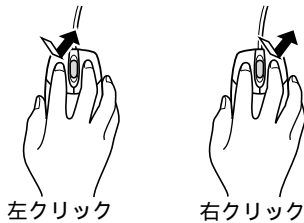
◎ マウスを凹凸がない水平な面で使用するときは、マウスパッドや紙などを敷いて使用してください。マウスは、ボールと滑走面との摩擦で動作するようになっているので、表面がツルツルした凹凸がない場所では正しく動作しないことがあります。

マウスポインターの移動

マウスを動かすと、マウスの動きに合わせてマウスポインターが画面上を動きます。

ポイント

マウスを動かし、マウスポインターを移動し目的の位置に合わせることを、「ポイント」といいます。

クリック

マウスのボタンを 1 回押します。

ダブルクリック

マウスの左ボタンを、2 回続けて押します。

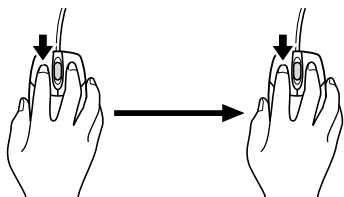
ヒント

★ **ダブルクリックするときの速さは、[マウスのプロパティ] 画面で調整できます。**

参照

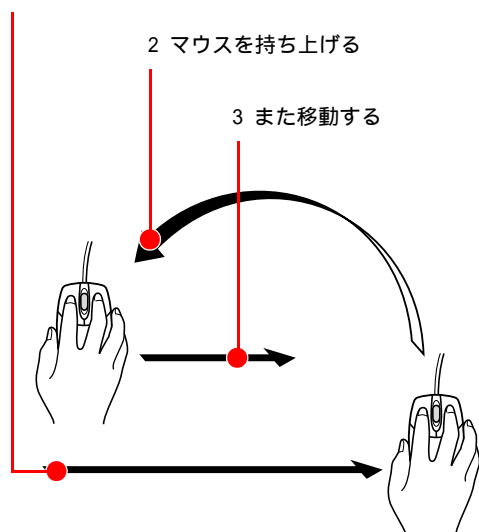
マウスの設定の変更について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「マウスを調整する」または［ポインティングパッド、マウスを調整する]

ドラッグ

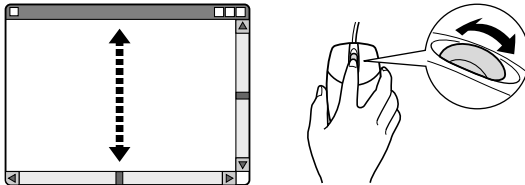
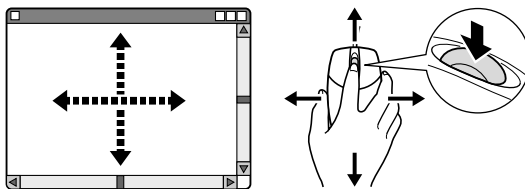
マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。

ドラッグアンドドロップ

アイコンなどを左ボタンを押して選び、ボタンを押したまま別の場所に移動して指をはなすことを、「ドラッグアンドドロップ」といいます。ファイルの移動やコピーなどに使います。

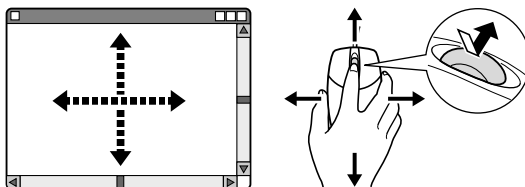
狭い場所でマウスを使う

マウスポインターをもっと動かしたいのに、マウスを動かす場所がなくなってしまったら、いったんマウスを持ち上げて、元の場所からもう一度動かします。

スクロールする

ウィンドウに表示されている内容を上下に移動して、見えない部分を表示することをスクロールといいます。
ホイールボタンを使うと、簡単にスクロールできます。

●縦にスクロールする
ホイールボタンを回転させると、縦にスクロールします。

●好みのスピードでスクロールする
ホイールボタンを真下に押しながらマウスを上下左右に動かすと、好みのスピードでスクロールします。マウスの動きを止めても、ホイールボタンを離すまでスクロールは続きます。

●自在にスクロールする
ホイールボタンをクリックしたあと、マウスを上下左右に動かすと、マウスを動かした方向とスピードに合わせてスクロールします。マウスの動きを止めてもスクロールは続きます。もう一度ホイールボタンをクリックすると、スクロールが止まります。

ホイールボタンの使用について

・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。

ヒント

★ **アプリケーションによっては、表示の拡大／縮小や、表示内容の変更を、ホイールを使ってできます。詳細は、マウスのプロパティーのヘルプをご参照ください。例えば、インターネットエクスプローラの場合は、[Shift] キーを押しながら、ホイールを回転すると、Web 頁の [進む] 、[戻る] ボタンと同じ動きをします。**

プリンターを接続する

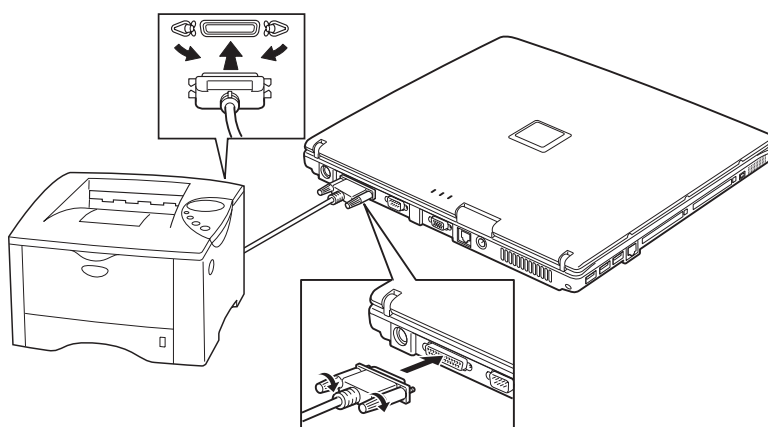
ここでは、パラレルプリンターの接続方法、ドライバーのインストール方法と削除方法、使用するプリンターの選択方法について説明します。

接続方法

1 パソコンの電源を切る。

2 パソコン背面のプリンターインタフェースコネクターにプリンターケーブルを接続する。

3 プリンターのコネクターにケーブルを接続し、バネ式ロックをかける。

プリンターのモード設定や用紙のセットなどを行う場合は、パソコンの電源を入れてから行う。

ヒント

★ プリンターを接続するときは、別売のプリンターケーブルをお買い求めください。

参照

プリンターケーブルについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.50)

ヒント

★ SCSI アダプターなど、弊社のオプション機器以外の装置をプリンターインタフェースコネクターへ接続すると、正しく動作しないことがあります。

参照

接続できるオプションについて
→4 章の「オプション一覧表」(P.50)

重要

◎ コネクターは上下方向にゆさぶったりせず、必ず水平にまっすぐ抜き差ししてください。

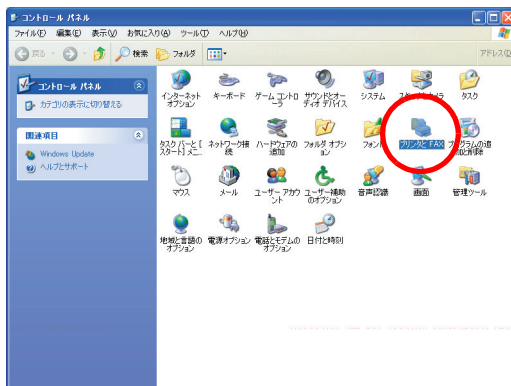
◎ 接続したコネクターに、上下方向から負荷が加わらないようにしてください。

プリンタードライバーのインストール方法

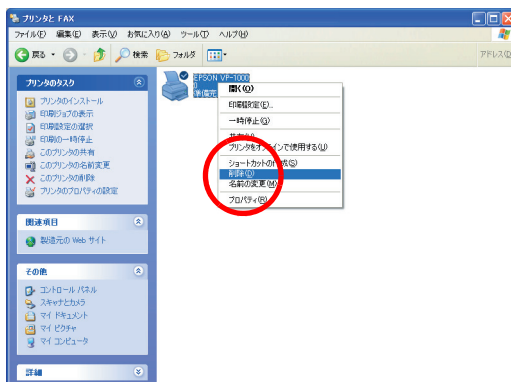
プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

プリンタードライバーの削除方法

パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除 (アンインストール) するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[プリンタと FAX] アイコンをダブルクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除]をクリックする。

ヒント

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

★ Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタン－ [設定] － [プリンタ] アイコンをダブルクリックしてください。

3 メッセージが表示されたら、[はい] ボタン (または [OK] ボタン) を何度かクリックする。

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

[通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート] ボタンー [コントロールパネル] をクリックして、[プリンタと FAX] アイコンをダブルクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 通常使うプリンターを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

▼ 以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの[ファイル]メニューから[印刷]を選ぶ。

▼ [印刷] ダイアログボックスが開く。

2 プリンターのドロップダウンリストから、一時的に使用するプリンターを選び、[OK] ボタンをクリックする。

ヒント

★ 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

ヒント

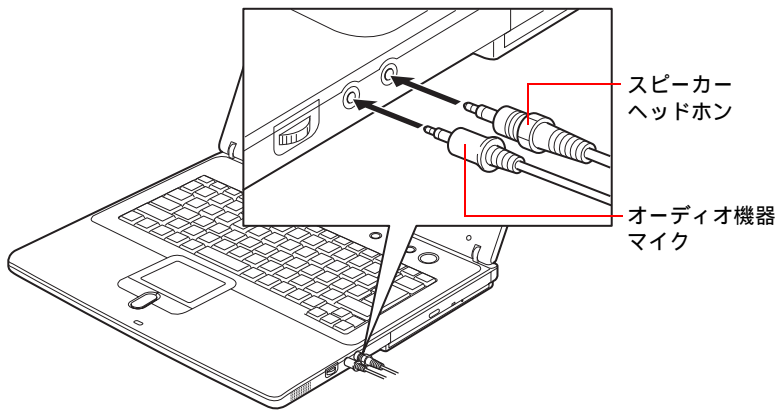
★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

★ Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンー [設定] ー [プリンタ] アイコンをダブルクリックしてください。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

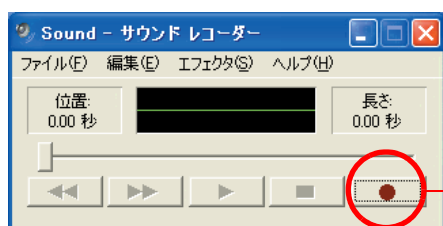
1　パソコン側面の各コネクターに、スピーカーやヘッドホン、マイク、オーディオ機器のジャックを接続する。

◎　ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

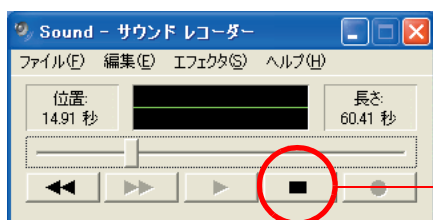
マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の［サウンドレコーダー］を使って録音する方法を説明します。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［すべてのプログラム］（［プログラム］）−［アクセサリ］−［エンターテイメント］−［サウンドレコーダー］の順にクリックする。**

▼［サウンドレコーダー］画面が表示される。

2 **［録音］ボタンをクリックする。**

3 **マイクに向かって話す。**

4 **［停止］ボタンを押す。**

参照

録音レベルの調整→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「音量を調整する」

ヒント

★ 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］を選択してください。

重要

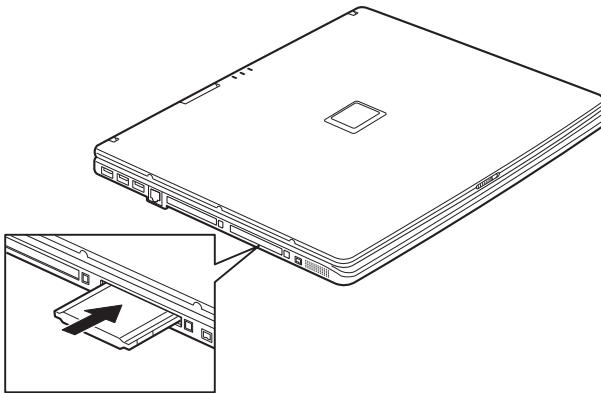
◎ マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

PC カード

このパソコンには、Card Bus ／ JEITA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 2 枚接続できます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

取り付け手順

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **PC カードの表側を上にし、水平にまっすぐ奥までしっかりと PC カードを差し込む。**

取り外し手順

1 **[タスクバー] の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをダブルクリックする。**

Windows 2000 の場合、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。

▼ [ハードウェアの安全な取り外し] 画面が表示される。

重要

◎ Type IIIの PC カードはご使用できません。

◎ PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。

◎ PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。

◎ PC カード使用時に節電機能を使うと、動作しないことがあります。

ヒント

★ 画面は、Windows XP を例にしています。

2 **[ハードウェア デバイス] から取り外すデバイスを選択し、[停止] ボタンをクリックする。**

3 **[ハードウェア デバイスの停止] 画面が表示される。**

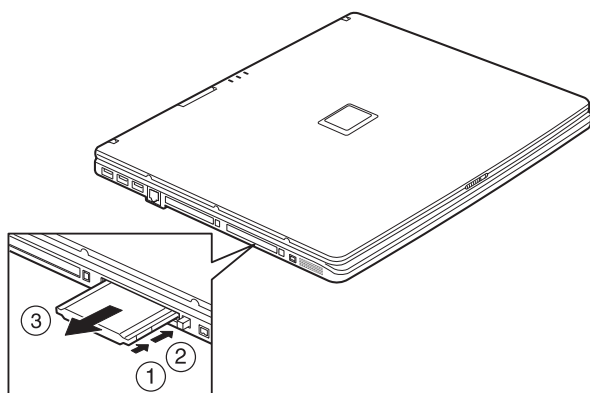
4 **取り外す PC カードであることを確認して [OK] ボタンをクリックする。**

5 **『 XXX 〜 ' は安全に取り外すことができます。」とタスクトレー上にバルーン表示される。**

Windows 2000 の場合、「' XXX 〜 ' は安全に取り外すことができます。」画面が表示される。

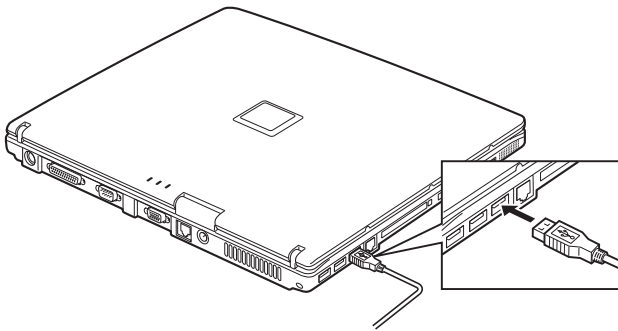
6 **[OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの安全な取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。**

Windows 2000 の場合、[OK] ボタン－ [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

7 **取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

USB 機器を接続する

このパソコンにはUSB(Universal Serial Bus)機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 **パソコン側面の USB コネクターに USB マーク（ ）が上側になるようにして USB ケーブルを差し込む。**

ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

★ USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ] で USB コントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

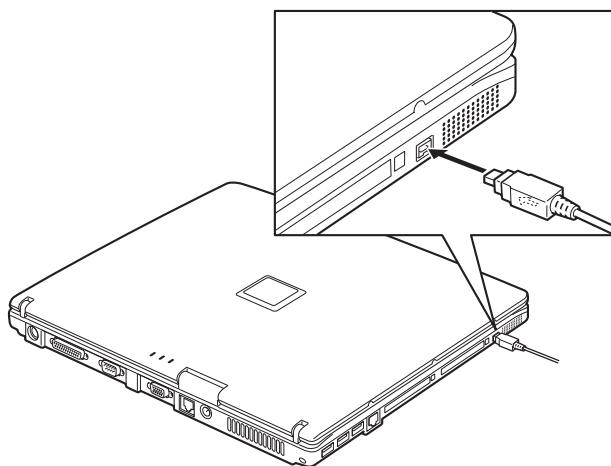
重要

◎ 接続している USB 機器によっては、スタンバイや休止状態から復帰しない場合や、復帰後および再起動後に動作が不安定になる場合があります。その場合、スタンバイや休止状態は使用しないでください。USB 機器によっては、USB ケーブルを抜き差しすることで動作が改善される場合もあります。

IEEE1394 機器を接続する

このパソコンには、IEEE1394 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、IEEE1394 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコンの側面の IEEE1394 コネクターに IEEE1394 ケーブルを接続する。

ヒント

★ IEEE1394 機器によっては、電源を入れたまま抜き差しができない機器があります。

重要

◎ 接続している IEEE1394 機器によっては、スタンバイや休止状態から復帰しない場合や、復帰後および再起動後に動作が不安定になる場合があります。その場合、スタンバイや休止状態は使用しないでください。
IEEE1394 機器によっては、IEEE1394 ケーブルを抜き差しすることで動作が改善される場合もあります。

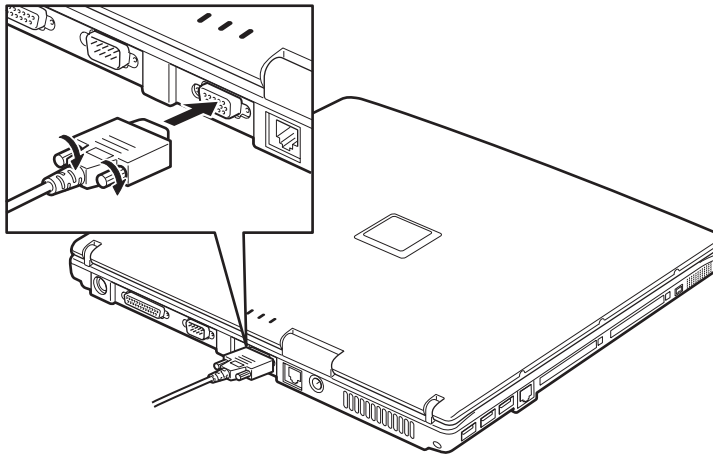
ディスプレイを接続する

外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示(同時表示)できます。
さらに、Windows XP は、1 つの画面を 2 台のディスプレイで、広げて表示(マルチディスプレイ表示)できます。

重要
◎ Windows 2000 の場合、マルチディスプレイ表示はできません。
◎ コネクターは上下方向にゆさぶったりせず、必ず水平にまっすぐ抜き差ししてください。
◎ 接続したコネクターに、上下方向から負荷が加わらないようにしてください。

接続方法

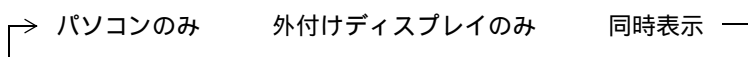
1 パソコンの電源を切る。

2 パソコン背面のディスプレイインタフェースコネクターに、外付けディスプレイのケーブルを接続する。

表示先を切り替える

画面表示は、パソコンのみ、外付けディスプレイのみ、同時表示に切り替えることができます。

キーで切り替える

[Fn] キーを押しながら、[F7] キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。

→ パソコンのみ → 外付けディスプレイのみ → 同時表示

[画面のプロパティ] で切り替える

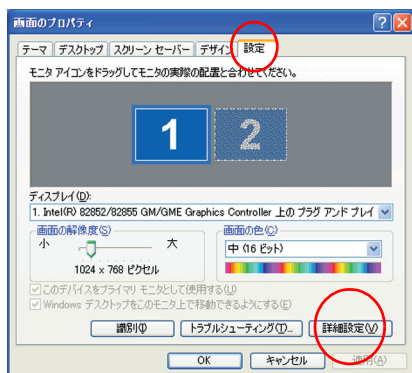
ここでは、外付けディスプレイにのみ表示させる方法を例に説明します。

1 [スタート] ボタンー [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。

Windows 2000 では、[スタート] ボタンー[設定] ー [コントロールパネル] ー [画面] アイコンをダブルクリックする。

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

Windows 2000 では、[設定] タブをクリックし、[詳細] ボタンをクリックする。

▼ [プラグアンドプレイモニタと Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Con..] 画面が表示される。

重要

◎ 外付けディスプレイの解像度や色数は、パソコン使用可能範囲以内で設定してください。

◎ キー操作での画面表示切り替えは、外付けディスプレイの解像度や色数を正しく設定したあとに行ってください。

◎ オプション以外のディスプレイを接続してパソコンを立ち上げた場合、外付けディスプレイに正常に表示されない場合があります。キーでの切り替えを行うと表示できる場合もあります。

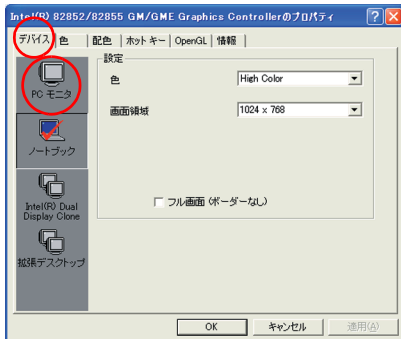
ヒント

★ 表示先の切り替えは、一時的に切り替わるだけで、電源を入れ直すと同時表示に戻ります。電源を入れ直した後も設定を保持したい場合には、画面のプロパティーで切り替えを行ってください。

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています

3 [Intel(R) Extreme Graphics] タブをクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controller のプロパティ] 画面が表示される。

4 [Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブをクリックし、[PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェックが付く。

5 [デバイス] タブ上の [設定] を次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

設定　色：True Color
画面領域：1024 × 768
リフレッシュレート：60Hz

▼ [デスクトップ変更の確認] 画面が表示される。

6 外付けディスプレイに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ(またはマルチモニター)表示の設定を説明します。
Windows XP の場合、この設定が可能です。

1 **外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。**

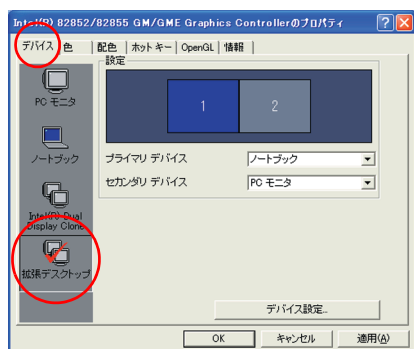
2 **[スタート] ボタンー [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。**

▼[画面のプロパティ] 画面が表示される。

3 **[設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。**

4 **[Intel(R) Extreme Graphics] タブをクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

▼[Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controller のプロパティ] 画面が表示される。

5 **[デバイス] をクリックし、[拡張デスクトップ] アイコンをクリックする。**

▼[拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェックが付く。

6 **[デバイス設定] ボタンをクリックする。**

▼[デバイス設定] 画面が表示される。

ヒント

★ マルチディスプレイ表示にしたときは、[Fn] + [F7] キーを押しても、画面表示は切り替わりません。

★ [コントロールパネル] は「クラシック表示」で説明しています。

重要

◎ Windows 2000 では、マルチディスプレイの設定はできません。

◎ マルチディスプレイ表示の設定手順は、必ず外付けディスプレイを接続してから行ってください。

◎ マルチディスプレイ設定時、3D スクリーンセーバーは使用できません。

◎ マルチディスプレイ設定時、セカンダリーモニターで 3D アプリケーションが正常に再生されない場合があります。その場合、プライマリーモニターで再生を行ってください。

7 [ノートブック (プライマリ)] の [設定]、[モニタ (セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

設定　　色：High Color
画面領域：1024 × 768

▼ [Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

8 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

9 外付けディスプレイに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

同時表示にする

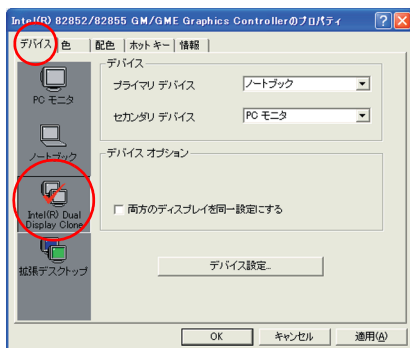
マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

1 マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面のプロパティ] 画面を開く。

2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

3 [Intel(R) Graphics Technology] をクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

Windows 2000 では、[設定] ー [詳細] ボタンー [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

4 [デバイス] タブをクリックし、[Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。

▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックが付く。

5 [デバイス設定] ボタンをクリックする。

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

6 [ノートブック (プライマリ)] の [設定]、[モニタ (セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

ノートブック（プライマリ）　色：High Color
画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ）　リフレッシュレート：60Hz

▼ [Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

7 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

8 同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。

解像度

マルチディスプレイ表示で設定するディスプレイ１とディスプレイ２の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。各ディスプレイの色数は同じ値に設定してください。

ディスプレイ 1 の解像度	ディスプレイ 2 の解像度
640 × 480	640 × 480　*1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
800 × 600	640 × 480　*1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
1024 × 768	640 × 480　*1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200
1280 × 1024　*2	640 × 480　*1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024
	1600 × 1200

＊ 1:Windows XP では解像度 640 × 480 は表示できません。
＊ 2:XGA モデルの場合、仮想デスクトップ表示になります。

参照

解像度の変更方法について→『使い勝手を良くする』1 章の「ディスプレイの表示を変える」

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的にWindowsが環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード]を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード]を使う前に、周辺機器に付属のマニュアルを良くお読みください。付属マニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

ヒント
★ メモリーの増設では、環境を設定する必要はありません。

参照
周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 パソコンの電源を切る。

2 電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。

ヒント
★ USB機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

3 必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。

4 パソコンの電源を入れる。

5 [コントロール パネル]を開き、[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする。

▼[ハードウェアの追加ウィザード]が表示される。

6 手順に従い、[次へ]ボタンをクリックする。

▼新しい周辺機器の検出が始まる。

7 しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。

ヒント
★ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからない場合があります。[次へ]ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8 [完了]ボタンをクリックする。

▼検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

3 章

日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

重要

◎ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

パソコン

パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

重要

◎ 専用クリーナーは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

ヒント

★ ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

クリーニング手順

1 マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。

フタを外して、中のボールを取り出す。

2 ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順で、フタを取り付ける。**

FDD

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 ～ 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント
- ★ クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。
- ★ クリーニングキットは、パソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ボタン－ [(すべての) プログラム] － [アクセサリ] － [コマンド プロンプト] をクリックする。**

▼ [コマンド プロンプト] ウィンドウが表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

▼ エラーが表示される。

ヒント
- ★ クリーニングするドライブのドライブ文字が (A) の場合、入力は「dir A:」になります。

4 **手順 3 に戻り、これを 4、5 回繰り返す。**

5 **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。ウィンドウが消える。**

CD/DVD ドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

重 要

◎ **クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。**

ヒント

★ **クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

4 章

技術情報

この章では、パソコンのシステム構成および仕様について説明します。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
形名	UC6600
読み込み速度 ＊	最大 24 倍速
読み込み方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式)／電動イジェクト
周波数特性	20Hz ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファーメモリー	128KB
転送レート	最大 3600KB/s
質量	約 180g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-R
・ CD-RW
・ CD-TEXT
・ CD-Extra(CD-Plus)
・ CD-I
・ CD-I Bridge
・ CD-I Ready
・ Video CD

重 要

◎ **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
形名	UC6610
読み込み速度 ＊	DVD-ROM ： 最大 8 倍速 CD-ROM ： 最大 24 倍速
書き込み速度	CD-R ： 最大 24 倍速、CD-RW：最大 4 倍速、 High Speed CD-RW：最大 16 倍速 Ultra Speed CD-RW：最大 24 倍速
読み込み方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20Hz ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファーメモリー	2MB
転送レート（Read）	DVD-ROM ： 最大 10800KB/s CD-ROM ： 最大 3600KB/s
転送レート（Write）	CD-R：最大 3600KB/s、CD-RW：最大 600KB/s High Speed CD-RW：最大 1500KB/s Ultra Speed CD-RW：最大 3600KB/s
質量	約 220g
推奨ディスク	CD-R ： 太陽誘電 (株) 製、TDK(株) 製、 三井化学 (株) 製、三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製、日立マクセル (株) 製 CD-RW ： 三菱化学 (株) 製、(株) リコー製 High Speed CD-RW：三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製 Ultra Speed CD-RW：三菱化学 (株) 製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク
次のディスクを使用できます。

- CD-R、CD-RW
- High Speed CD-RW
- Ultra Speed CD-RW
- CD-DA(オーディオCD)
- CD-ROM(mode1、mode2)
- CD-ROM XA(mode2のform1、form2)
- PhotoCD(シングル/マルチセッション)
- CD-I
- CD-I Bridge
- CD-I Ready
- CD-TEXT
- VIDEO-CD
- CD-Extra(CD-Plus)
- DVD-ROM
- DVD-R(General、Authoring)
- DVD-RW
- DVD-RAM(4.7GB、2.6GB)
- DVD-VIDEO

重要

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。

◎ CD-R/RWは、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。

◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

FDDの仕様

項目		仕様
形名		UF2231
対応ディスクフォーマット		720KB/1.25MB/1.44MB
方式		USB Spec Rev.1.0
回転速度		300r/min(720KBモード/1.44MBモード時) 360r/min(1.25MBモード時)
データ転送速度	FDD部	250KB/s(720KBモード) 500KB/s(1.25MBモード時/1.44MBモード時)
	USB部	12Mbit/s
外形寸法		104mm(W)×142mm(D)×17mm(H)
ケーブル長		約700mm
質量		約290g
消費電力		最大2.5W
周囲温度	動作時	10～35℃
	非動作時	－10～43℃
	保存および輸送時	－10～60℃
周囲湿度	動作時	40～80%Rh(結露しないこと)
	非動作時	20～80%Rh(結露しないこと)
	保存および輸送時	20～80%Rh(結露しないこと)
	最大湿球温度	25℃

ヒント

★ USB FDDはオプション品です。

FD の仕様

■2HD

容 量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長 (バイト)	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B ＊	R/W ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

■2DD

容 量	720KB
トラック数／面	80
セクター長 (バイト)	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

重要

◎ 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。

◎ 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。

◎ Windows XP では、2DD の FD はフォーマットできません。

ドライブの使用について

CD/DVD ドライブ、FDD（以下、まとめてドライブ）と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読み込めないことがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
- ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
- ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など）、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み込みスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット（[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す）を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
- ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ドライブは、5 〜 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R/RW を書き込み中に傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- FDD など、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
- WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
- コマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
- FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。
- トレーの開閉は勢いよくすると、HDD の故障の原因となります。ゆっくり開閉してください。

ディスクの取り扱い

・ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
・ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
・ディスクは高温な場所に保管しないでください。
・ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
・ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
・ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
・お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
・CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

FD の取り扱い

・FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
・磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
・FD は次のような場所に保管してください。
保管温度：4 ℃〜 53 ℃
保管湿度：10 〜 90%Rh(結露しないこと)
最大湿球温度：25 ℃
・FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
・FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
・大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

メモリーボードの仕様

項目	仕様		
形名	MK7132/MK7136	MK7258/MK7262	MK7515
容量	128MB	256MB	512MB
パリティ	なし		
DRAM タイプ	DDRSDRAM、PC2100		
DIMM タイプ	SO-DIMM 200 ピン		
電源電圧	2.5V		

バッテリーパックの仕様

項目	仕様	
形名	AB6900	AB6910
容量	2200mAh	4400mAh
出力電圧	14.8V	14.8V
充放電回数	約 300 回	
外形寸法	120mm(W) × 145mm(D) × 19mm(H)	120mm(W) × 145mm(D) × 19mm(H)
質量	約 710g	約 630g

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電 (使用) と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。

ヒント

★ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

マウスの仕様

項目	仕様	
形名	KM1300	KM5430
外形寸法	62mm(W) × 120.8mm(D) × 37.5mm(H)	
質量	約 120g	
ケーブル長	約 1000mm	
インタフェース	PS/2 準拠	USB 準拠

内蔵無線 LAN の仕様

項目	仕様
通信規格	IEEE802.11b 準拠
通信速度	最大 11Mbps
周波数帯	2401 ～ 2495MHz
使用可能 チャンネル	1 ～ 14ch
暗号化機能 (WEP)	対応 Bit 数：64bit(40bit) ／ 128bit 暗号キー入力：16 進数／ ASCII コード

- 5GHz(IEEE802.11a 準拠) の無線 LAN アクセスポイント (PC-CN5410) とは通信できません。
- 無線 LAN は日本国内の法律に基づいて開発しています。海外で使用すると罰せられる場合があります。
- 内蔵無線 LAN の Peer-to-peer 接続は同一機同士の接続のみ可能となります。オプションの無線 LAN カード (PC-CN3200、PC-CN3400、PC-CN5420) や、他機種の PC 内蔵無線 LAN との Peer-to-peer 接続はできません。
- 通信速度は理論上の最大値であり実際の通信速度は電波の状況等によって異なります。
- 内蔵無線 LAN は、12 ～ 14ch の Peer-to-Peer 接続はできません。インストラクチャーモード (アクセスポイント) のみです。

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。
オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますので
ご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DC5202	15 型カラーマルチスキャン
		DC7104	17 型カラーマルチスキャン
		DC3623	22 型カラーマルチスキャン
		DT3155A	15 型スーパーピュアカラー液晶
		DT3156	15 型スーパーピュアカラー液晶
		DT3184	18.1 型スーパーピュアカラー液晶
入力装置	テンキーボード	KB3420	PS/2 I/F、17 キー マウス I/F 付き
		KB3450	USB、17 キー USB IF 付き
	マウス	KM1300	PS/2 I/F、2 ボタン ホイール付き
		KM5430	USB I/F、2 ボタン ホイール付き
	光学マウス	KM5450	USB I/F、2 ボタン ホイール付き
	Link Stick	KX1100	ハンドイメージスキャナ USB I/F
メモリー	メモリーボード	MK7132/MK7136	128MB、DDRSDRAM SO-DIMM、PC2100
		MK7258/MK7262	256MB、DDRSDRAM SO-DIMM、PC2100
		MK7515	512MB、DDRSDRAM SO-DIMM、PC2100
アクセサリー	AC アダプター	AP7000	
	バッテリーパック (標準)	AB6900	リチウムイオン
	バッテリーパック (大容量)	AB6910	リチウムイオン
	ダミーバッテリー	AE3900	
ファイル装置 (外付)	USB FDD	UF2231	USB I/F
PC カード	2.4GHz 無線 LAN カード	CN3400	IEEE802.11b 準拠
	5GHz 無線 LAN カード	CN5420	IEEE802.11a 準拠

＊1

分類	品名	形名	仕様	
プリンター	シリアルドットプリンター	PD2080A	75 字 / 秒、136 桁	＊2
		PD2130	125 字 / 秒、136 桁	＊2
		PD2161	160 字 / 秒、136 桁	＊2
	水平インサータープリンター	PD4080S	75 字 / 秒、80 桁	＊2
		PD4081	80 字 / 秒、136 桁	＊2
		PD4130A	130 字 / 秒、136 桁	＊2
		PD4180	180 字 / 秒、136 桁	＊2
	ラインプリンター	PN5200	280 行 / 分、136 桁	
		PN5400	500 行 / 分、136 桁	
		PN5600	800 行 / 分、136 桁	＊3
		PN5600P	800 行 / 分　パワースカッターモデル、136 桁	＊3
	モノクロページプリンター	PL2170	16 枚 / 分、A4 モデル	＊2
		PL2570	22 枚 / 分、A3 モデル	＊2
		PL7350B	35 枚 / 分、A3 モデル、2 段カセット	
		PL7350T	35 枚 / 分、A3 モデル、4 段カセット	
		PL7450B	45 枚 / 分、A3 モデル、2 段カセット	
		PL7450T	45 枚 / 分、A3 モデル、4 段カセット	
		PL7450C	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー機能	
		PL7450CF	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX 機能	
		PL7450CN	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / スキャナ機能	
		PL7450FS	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ スキャナ機能	
		PL7450C2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / 後処理機能	
		PL7450CF2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ 後処理機能	
		PL7450CN2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー / スキャナ / 後処理機能	
		PL7450FS2	45 枚 / 分、A3 モデル、コピー /FAX/ スキャナ / 後処理機能	
	カラーページプリンター	PK3000	カラー 6 枚 / 分、モノクロ 24 枚 / 分、A3 モデル	
		PK3000N		
		PK3500N		
		PK2000	カラー 6 枚 / 分、モノクロ 24 枚 / 分、A4 モデル	
		PK2000N		
		PK2500N		
		PK4710N	カラー 29 枚 / 分、モノクロ 29 枚 / 分、A3 モデル	
	連続紙ページプリンター	PL9120	1650 行 / 分	

分類	品名	形名	仕様	
シリアルドット / ライン プリンター オプション	イージーセット フィーダー	AS40801S	PD4080S 用	＊ 4
	トラクターユニット	PG4080S	PD4080S 用	
		PG4081	PD4081 用	＊ 5
		PG4130	PD4130A/4180 用	＊ 6
	自動給紙機構	AS40802S	PD4080S 用	
		AS4081	PD4081 用	＊ 5
		AS4130	PD4130A/4180 用	＊ 6
		AS1061	PD2080 用	
		AS3130	PD2130 用	
		AS2161	PA2161 用	
	LAN アダプター	PB20101	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/ 4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P PL9120 用、100/10BASE	
		PB20111	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/ 4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P 用、 100/10BASE	
		PB20301	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/ 4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P PL9120 用、100/10BASE	
		PB40002	PL9120/PK2000/3000 用、100/10BASE	
	防振テーブル	AD10100	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/ 4130A/4180 用	
	パワースタッカー	PH91201	PL9120 用	
	用紙カッター	PH91202	PL9120 用	

分類	品名	形名	仕様	
ページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF2170	PL2170 用、250 枚給紙機構	＊ 7
		PF25701	PL2570 用、250 枚給紙機構	＊ 8
		PF25702	PL2570 用、250 枚給紙機構	＊ 8
	画面ユニット	PW2570	PL2570 用、画面印刷機構	
		PW74501	PL7350x/7450x 用、手差しトレイ付き	
	拡張メモリー	PM27001	PL2570 用、32MB	＊ 9
		PM27002	PL2570 用、64MB	＊ 9
		PM74501	PL7450x/7450x/7450xx2 用、128MB	
	LAN ボード	PB20002A	PL2570 用、100/10BASE	＊ 10
		PB20011A	PL2570 用、100/10BASE、C/S560 対応	＊ 10
		PB2170	PL2170 用、100/10BASE	
	KEIS フォントカード	PB20702	PL2570 用、C/S560 対応	
	内蔵 HDD	PA74502	PL7350x/7450x/7450xx2 用、5GB	
	PS 拡張キット	PA74503	PL7350x/7450x/7450xx2 用、PostScript 用キット、モトヤ 5 書体付き	
	Desktop Document Manage	PV74502	PL7350T 用、マルチファンクション対応コントローラ	
	マルチファンクションコントローラー	PB73501	PL7350T 用、マルチファンクション対応コントローラ	
	マルチファンクションキット	PV7450C	PL7350T/7350T 用、コピー拡張キット	
		PV7450CF	PL7350T/7350T 用、コピー /FAX 拡張キット	
		PV7450CN	PL7350T/7350T 用、コピー / スキャナ拡張キット	
		PV7450FS	PL7350T/7350T 用、コピー /FAX/スキャナ拡張キット	
	FAX 用増設メモリー	PV74506	PL7450CFx/7450FSx、PV7450CF/7450FS 用、8MB	
	電源ユニット	PA74501	PL7350B/7450B 用、排紙オプション増設用	
	メールビンスタッカー	PH74503	PL7350x/7450x 用、8 ビン排紙、最上段 250 枚、その他段 100 枚	＊ 11
	フィニッシャー	PH74504	PL7350x/7450x 用、ステープル機能、最大 1200 枚排紙	＊ 11

分類	品名	形名	仕様
カラー ページ プリンター オプション	ペーパーフィーダー	PF4110	PK3000/3000N/3500N 用、 500 枚給紙機構
		PF4120	PK2000/2000N/2500N 用、 500 枚給紙機構
		PF47001	PK4710N 用、550 枚給紙機構
		PF47002	PK4710N 用、550 枚× 2 段給紙機構
		PF47003	PK4710N 用、3000 枚給紙機構
	両面ユニット	PW4100	PK3000/3000N/3500N 用
		PW4120	PK2000/2000N/2500N 用
		PW4700	PK4710N 用、両面印刷機構
	増設メモリー	PM41101	PK2000/2000N/2500N/3000/3000N 3500N 用、64MB
		PM42101	PK2500N/3500N 用、128MB
		PM47001	PK4710N 用、64MB
		PM47002	PK4710N 用、128MB
	LAN アダプター	PB40002	PK3000/2000/PL9120 用、100/10BASE
	増設 HDD	PA42101	PK3500N/2500N 用、フォント増設用
		PA47001	PK4710 用、6GB
	プリンター台	AD4110	PK3000/3000N/3500N 用、 プリンター台
		AD4700	PK4710N 用、プリンター台
	標準用紙カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用、 交換用カセット
		PA41201	PK2000/2000N/2500N 用、 交換用カセット
	A4 カセット	PA41102	PK3000/3000N/3500N 用、 交換用カセット
	LFU カセット	PA41103	PK3000/3000N/3500N 用、 交換用カセット
		PA41203	PK2000/2000N/2500N 用、 交換用カセット
	フィニッシャー	PH47101	PK4710 用、ステープル機能、 最大 1100 枚排紙

分類	品名	形名	仕様	
LAN 機器	2.4GHz 無線 LAN アクセスポイント	CN3300	IEEE802.11b 準拠	
	5GHz 無線 LAN アクセスポイント	CN5410	IEEE802.11a 準拠	
	TP トランシーバー	LAN-LNTTF		
	リピーター	HN-1312-12		
	マルチリピーター (HUB)	HN-1332-08B		
		HN-1332-16		
		HN-1332-16A		
		HN-1352-08		
		LAN-LNRP8A		
		LAN-LNRP16A		
		LAN-LNFRP8A		
	SNMP 付マルチポートリピーター	LAN-LNRP12		
	HUB 管理ユニット	HN-F1332-1		
	管理機能内蔵 HUB	HN-1342-08		
		HN-1342-16		
		HN-1342-16A		
		HN-1362-08		
	スイッチング HUB	PC-BH7500		
	HS30	HN-1801-08		
	HS30	HN-1801-16		
	HS50	HN-1805-10		
	HS100	HN-1811-10		
	HS100	HN-1811-10A		
	HS100	HN-1811-10F		
	HS150	HN-1815-10		＊ 12
	HS150	HN-1815-10A		＊ 12
	HS150	HN-1815-20		＊ 12
	HS150	HN-1815-20A		＊ 12
	HS150	HN-1815-31		
LAN 機器	HS150	HN-1815-32		
	HS200	HN-1821-10A		
	HS200	HN-1822-10A		
	HS200	HN-F1821-12		
	HS200	HN-F1821-31A		
	HS200	HN-F1821-32E		
		LAN-LNF2SW6A		＊ 12
		LAN-LNFR2SWA		
		LAN-LNFR8SWA		＊ 12

分類	品名	形名	仕様
ケーブル	プリンターケーブル	LP1101	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 PL2170/2570/7350x/7450xx/7450xx2 PK2000/2000N/2500N/3000/3000N/3500N/4710N 用、1.8m
		LP20301	PB20301 用、変換コネクター
		HT-4996-66E	PN5200/5400/5600/5600P 用、2.5m
		HT-4996-66H	PL9120 用、5m
	モデムケーブル	LM1111	4.0m
		LM1100	2.0m
	RS-232-C 機器接続ケーブル	LR1111	4.0m
		LR1100	2.0m
	SCSI ケーブル	LE3080	
	マルチリピーター接続ケーブル	HN-F1332-16	HUB16 を接続
	TP ケーブル（3m）	LNW03Q5	
	(6m)	LNW06Q5	
	(15m)	LNW15Q5	
	(30m)	LNW30Q5	
	(100m)	LNW100Q5	

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。
＊1：無線 LAN 内蔵モデルでは使用できません。
＊2：プリンターケーブルや拡張メモリーなどとのセット品もあります。
＊3：通常の 2 極電源とは異なるため、別途、電源工事が必要です。
＊4：イージーセットフィーダー接続時は、自動給紙機構の前方接続または連続用紙の前方給紙はできません。
＊5：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの後方に同時接続することはできません。
＊6：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの前方に同時接続することはできません。
＊7：1 段のみ増設可能です。
＊8：2 段まで増設可能です。ただし、５００枚ペーパーフィーダーは最下段のみで使用可能です。
＊9：拡張メモリーは 1 つのみ接続可能です。
＊10: LAN ボードと内蔵ハードディスクは、いずれか 1 つの選択となります。
＊11: いずれかひとつの選択となります。
＊12: 100BASE-TX/10BASE-T 共用です。それ以外の LAN 機器は 10BASE-T 専用です。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス（ 特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。
・キーボードの上や排気孔の近くに物を置かないでください。

参照
最適な湿度について→『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時に
チェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 1 分以上お待ちください。連続して電源を入り切りする（瞬時停電も含む）と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。1 分以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
・パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付きＯＡタップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信について

・通信中や、CD/DVD ドライブ、FDD の読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

ディスプレイについて

・表示するパターンによっては､微妙な輝点（ 指定の色と関係なく光る ）や黒点（ 指定の色が表示できない ）が見えたり､罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。
・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、5 ℃～ 35 ℃です。5 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。5 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変ったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは､すぐに拭き取ってください｡
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・パソコンのディスプレイの最大領域を越えて、外付けのディスプレイに同時表示すると、パソコンのディスプレイには表示されません。
・節電機能に移行するとき、表示が一瞬、乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電（使用）と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーパックは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・バッテリーパックの金属部分には素手で触れないでください。
・バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
　・電池の＋－端子間をショートさせない。
　・火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
　・落下などの強い衝撃を与えない。
　・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
　・濡れた布で金属部分を拭かない。
　・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
　・分解しない。
　・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
　・指定外のバッテリーパックを使用しない。
　・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
・使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

ハードウェアを使いこなす

第2版　2004年 1月

株式会社　日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地

お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

NA0103000-2